

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・5月25日現在、来客数が前年比111.9%であり、前年比プラスの状態が1年以上継続している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・流れとしては全体的に変わっていないが、ゴールデンウィーク期間中に桜が満開となったこともあり、月を通して好調を維持できた。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが終わった後、ずっと好天が続いたことが良かった。消費税率が上がったにもかかわらず、売上が前年比で8%の伸びとなった。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・5月半ばを過ぎてから消費者の購買意欲が回復してきた。消費税増税の影響が一段落したためか、高額商品も売れ始めた。ただ、ガソリン価格高騰の影響がみられる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ビジネス客の動きが活性化してきた。消費税増税の影響による買い控え傾向もビジネス客の出張にはあまり影響がない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・客の様子に活気がみられる。
	変わらない	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・5月後半から、新サービスの申込をする客が店舗に殺到している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・本来であれば夏物商材のピークを迎える月のはずだが、天候が悪いせいか、平日の夕方や土日の来客数が一向に増えてこない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費者の動向をみると、消費税が上がったことに対する反応の善し悪しがまだ出ておらず、様子見をしている状態にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが明ければ、消費税増税の影響も緩和され、来街者は例年並みに回復するとみていたが、ホテルなどを利用するビジネス客は例年並みとなっている一方で、観光客の入込が例年並みまで回復していない。当商店街にあるスイーツ店などでは、観光客などの大型バスが停車しているのが常であったが、今年に限っては、いまだにそうした光景がみられない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みは予想の範囲内との認識が多く、大幅に減少している様子はみられない。ただ、当地ではゴールデンウィーク明けから低温が続いたせいか、販売量が前年を大きく下回った店舗もみられた。外国人観光客の入込は引き続き順調である。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・消費税増税後、客の買物点数が減っていたり、価格に対する反応が敏感になっている。消費税増税により、客の儉約志向が強まっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月前半の売上は割と堅調だったが、後半に入りブレーキが掛かり、最終的には前年をやや下回った。月全体ではあまり良い売上ではなく、数字からは景気が良くなっていることが見えてこない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・5月に入り、売上が回復することを想定していたが、セールを実施した婦人服とリビング用品を除いて苦戦している。店舗全体での売上は前年比94%となっており、客の買い控えが感じられる。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要により、家庭で調味料やティッシュペーパーなどの在庫が残っているため、一部の商材では増税の影響が残っているが、他の商材については前年以上の売上がみられるなど、動きが戻っている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が懸念されたが、酒やたばこ以外の商材の販売量は増税前の水準に戻っている。しかし、売上、来客数はともに前年を下回っており、決して良い状態とは言えない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因により来客数が変動している。5月前半は天候が良く、好調であったが、後半は気温が低下したことで失速している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客との話で、今から何かを買おうという話が全くみられない。今後、北海道経済がなかなか良くなるとみているためか、客も買わないように注意している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・消費税増税後の客の来店状況が悪く、ゴールデンウィークの来客数も前年を下回っている。

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税後、新規の来店が激減しているが、販売台数はどうにか前年並みを維持している。景気が農業生産に大きく左右される地域であるため、今後の動向については天候次第の面がある。	
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・前月と同じく消費税増税前の駆け込み需要のしわ寄せがみられるなど、まだ増税後の谷間にいる状態である。	
乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・受注量がなかなか上向いてこない。ただ、今月後半に入り、客の動きが戻りつつあるため、消費税増税前の駆け込み需要の反動からは回復してきている。	
自動車備品販売店(店長)	来客数の動き	・消費税増税後であるが、来客数が正常な状態に戻ってきている。	
高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・客がお金を使っている様子を感じられない。	
高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・ゴールデンウィーク後に落ち込んだため、月全体としてはやや悪かった。ランチはゴールデンウィーク期間中が良かったものの、それ以外の期間は前年を下回った。夕食は前月にみられた歓送迎会の動きが落ち着いたことで、やや売上が減少した。高級居酒屋などで伸びている建設関連企業の利用は、当店ではまだ目立っていない。	
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・社内旅行、報奨旅行といった団体宿泊の連泊がみられたものの、ビジネス、観光ともに個人客による予約が伸び悩んだ。	
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・来客数は前年並みかやや少ない程度で推移している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・来客数の動きを前年比でみると、3月が若干のマイナス、4月が若干のプラス、5月が前年並みで推移しており、大きく変わっていない。	
美容室(経営者)	お客様の様子	・消費税増税から1か月以上も経過したためか、客が慣れてきた感じがあり、以前と同じような雰囲気になってきている。3か月前と比べて、客の様子にあまり違いがなくなっている。	
住宅販売会社 (役員)	競争相手の様子	・競合他社は消費税増税が分譲マンション市場にどのような影響を及ぼすかを慎重に見極めているところである。各社とも客の反応の様子見しており、その結果、4月以降の分譲マンションの供給戸数が減っている。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・天候不順の影響なのか、消費税増税の影響なのかははっきりしないが、商店街の来客数が減っている。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・衣料品の売上が不振である。ジャケット、コートの動きの悪さもあり、前年比90%程度という状況である。また、紳士関連、食品関連の売上も前年比97%程度であり、消費税増税の影響がまだ続いている。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がまだ続いている。来客数は少しずつ回復してきているものの、3月以前のレベルまでは回復していない。購買客数、客単価ともに前年を下回っている。
	百貨店(役員)	お客様の様子	・消費税増税の影響だけではないが、家具やインポートブランドが低迷している。ただ、衣料品は比較的堅調に推移している。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減による落ち込みが続いている。思ったよりも回復に時間が掛かっている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数は回復傾向になってきているが、客単価が厳しい状態にある。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・消費税増税の影響が大きい。増税前は上昇傾向にあったが、増税後は下降傾向となっている。
	スーパー(企画担当)	来客数の動き	・地方では昇給がともなっていないため、消費税増税分の3%の影響が大きく、消費にブレーキが掛かっている。
	スーパー(役員)	来客数の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動が思いのほか大きく、5月も来客数の減少が続いており、税込の売上は前年から1%程度の落ち込みで推移している。まとめ買いした食品の消費が進まなければ、来客数は上向いてこない。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・周辺環境をみても、景気が上向くような要素がない。

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・コンビニ業界では、5月に入り、弁当や総菜、デザートなど、買いだめのできなかった商材の売上が回復してきているが、酒やたばこなど、買いだめされた商材については、売上の回復が遅れている。	
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が続いている。	
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けから、来客数、売上ともに前年を下回って推移している。	
	家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・依然として、消費税増税前の駆け込み需要の反動が続いている。特に、大型冷蔵庫や洗濯乾燥機といった大物家電の需要が低い。また、気温が上がってこないことの影響で、エアコンの需要も低くなっている。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・5月は月初から月末まで、日々、売上が前年を下回り、総体では10%のマイナスとなるなど、ここにきて消費税増税の影響が出てきている。	
	観光型ホテル（役員）	それ以外	・原材料価格やエネルギーコスト、人材派遣会社の派遣料金など、様々な経費が上昇している一方で、旅行会社の宿泊単価を中心に価格競争による値下げが常態化している。さらに、ツアーバスの不足と貸切バスの交替運転者の配置基準の改正により、貸切バスの利用単価が軒並みこれまでの2～3倍となっており、旅行商品の販売不振に拍車を掛けている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークもあり、例年、タクシーの利用が少ない月である。特に、今年は天候も良かったため、3か月前の冬期間と比べると売上が減っている。ただし、消費税増税による乗り控えは感じられない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月の当社の状況を見ると、消費税増税による影響が若干みられる。また、雇用環境の改善がともなっておらず、4～5名の人員が不足していることもあり、苦戦を強いられている状況が続いている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィークに期待していたが、それほど売上が伸びておらず、3か月前と比べて約8%も売上が減少している。前年実績と比べても約3%の落ち込みとなっていることから、やや悪くなっている。	
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・消費税増税の影響が顕著に出てきている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・消費税増税や燃料価格高騰の影響に加えて、ゴールデンウィーク後という状況も重なり、月後半は来客数、客単価とも落ち込んでいる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して、大幅に輸送量が減少している。	
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後で、客が様子見をしている状況にある。	
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・4月は消費税増税の影響が大きかったものの、5月は想定していたよりも回復基調にある。しかし、必要な物だけを買うなど、客の買い控えが感じられ、前年に比べて回復にはほど遠い状態にある。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・消費税増税後の客の購買動向に力強さが感じられない。来客数や客の買上率は回復しつつあるものの、単品買いが多く、必要最低限の購入で済ましているため、客単価が回復してこない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の前年比が40%を下回るなど、全車種で低迷している。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税から2か月目に突入したが、4月ほどではないものの、まだ影響を感じている。消費税率5%のころとは状況が違いすぎる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・東南アジア方面への海外旅行と熟年層からの受注が前年を下回っている。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みは緩和されつつある。大都市圏を中心に請負物件の需要がおう盛である。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建設労働者の不足による労務費の上昇に比べて、建設資材価格の上昇はそれほどでもなかったが、電力料金や石油価格の上昇により、建設資材価格の値上がりが続いており、建設工事の単価が上昇を続けている。

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前は消費税増税に対する一定の警戒感から、周囲の景況感や受注量、販売量の動向に多少の陰りが感じられたが、5月の受注量、販売量は、それ以前の水準に回復しており、景況感は着実に右肩上がりの傾向にある。
変わらない	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注の引き合いは、引き続き堅調に推移している。民間からの発注は比較的安定して出てきており、1つの発注に対して競合する企業数も減ってきている。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・飲料製品の本州向け輸送が計画よりも落ち込んでいる。
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・業界として、消費税増税が影響を及ぼしている様子はないが、年度前からの工事の着工遅れが継続しているなかで、材料などの動きが停滞期間に入っている。
	司法書士	取引先の様子	・土地や建物の取引、建物の建築が若干減少傾向にあるが、地域全体としては、大きな変動もなく推移している。
	司法書士	取引先の様子	・資材価格の高騰や人手不足の影響もあり、不動産の動きが鈍く、取引が低調である。
	コピーサービス業（従業員） その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・消費税増税以降、客の購買が慎重になっている。 ・人手不足が改善されず、収益を上げる機会を逃しているケースが散見される。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がみられる。
	金融業（企画担当）	それ以外	・観光関連は外国人観光客の増加で堅調である。しかし、個人消費は消費税増税の影響で落ち込んでおり、住宅着工も低迷している。建設業界では、人手不足の影響で工期の遅れや設備投資の見送りがみられる。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、不動産の売買、建物の増改築が減少したままである。
悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響により稼働日数が減少していることに加えて、消費税増税前の駆け込み需要の反動もあり、販売量は予想どおり落ち込んでいる。
雇用関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・様々な業界で人手不足が深刻化しているなか、若干ではあるがゴールデンウィーク明けから動きがあり、採用に結びつくケースがみられた。また、観光客の増加で観光地や街の中心部がにぎわいをみせているため、ホテルや飲食店、小売業などが好調のようだ。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は9.3%増加し、51か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も11.5%増加し、51か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要があった小売業の一部では、求人数減少の動きもみられるが、飲食料品小売業ではほとんど影響がみられない。また、ほぼすべての業種で求人数の伸びが続いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・各社の採用予定人数がおおむね増加している。採用活動も道内、首都圏に限らず非常に早く、活発になっている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前よりも大幅に増えているが、求職者の動きが鈍い。企業は業務量の増加から、人材の採用ニーズが高まっているが、採用時のハードルは緩めておらず、求人数の増加が、必ずしも採用数の増加に直結していない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が増えてきているが、充足している企業は少なく、人気の職種に求職者が偏っている状況にある。
	求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・求人数に伸びがみられなくなったと同時に、新規開店や出店による求人が減少してきている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・春先ほどの伸び率ではないが、求人数は底堅く推移している。求職者の動きの悪さも相まって、今後も求人数は極端に落ちこまないで推移する。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年を13.1%上回った。新規求職者数は前年を33.8%下回った。月間有効求人倍率は0.77倍となり、前年の0.69倍を0.08ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人占める割合が43.5%といまだ低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。

やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんどの業種で求人数が減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人数が16か月ぶりに減少するなど、消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響がみられる。
悪くなっている	-	-	-